

日本区域麻酔学会 第11回学術集会 ランチョンセミナー2

セメント人工股関節置換術・ 人工骨頭挿入術における周術期のポイント

会場・日時

2024年4月13日（土）
12:00~13:00

江陽グランドホテル 第2会場
〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町2丁目3-1

座長

相澤 俊峰 先生
(東北大学整形外科学教室)

演者

真 賢一 先生
(関西医科大学 整形外科学教室)

お問合せ先

パラコスジャパン事業部
アクアメッドジャパン株式会社
TEL:03-6262-3614
info@palacos.jp



日本区域麻酔学会 第11回学術集会 ランチョンセミナー2



LS2

セメント人工股関節置換術・人工骨頭挿入術における 周術期のポイント

人工股関節置換術（THA）は「世紀の大発明」と言われており、整形外科手術の中で最も患者が満足される手術である。THAの歴史は、1938年英国のWILESに端を発し、その後様々なTHAが各国で試行錯誤されたが、1962年英国のCHARNLEYによって開発された“LOW-FRICTION ARTHROPLASTY”の基本原則が現在も生き続けている。CHARNLEYの功績は、1960年代前半に1) セメント固定、2) 超高分子量ポリエチレンカップ、3) 直径22.225MM 骨頭による低摩擦トルクという革命的発明が行われ、1960年代後半に4) 無菌手術環境（クリーンルーム）、5) 段階的手術テクニックを確立した。その30年以上の長期成績は、原始的なセメントテクニックにもかかわらずカップ弛み71.8-84.0%、ステム弛み92.0-92.7%と良好であった。さらに、LINGらによって開発されたPOLISHED COLLARLESS TAPER STEMの35年以上の長期成績はステム弛み93.5%であり、大腿骨側におけるセメントTHAの有用性は疑う余地がない。

一方、1970年代にセメントを使用しないセメントレスTHAが開発され、世界的潮流となった。しかし、各国のレジストリー（国家登録制度）からは相反する結果が報告され、“UNCEMENTED PARADOX”と表現されることもある。また、北欧4カ国のレジストリー調査によると、セメントレスシステムはセメントシステムに比して周囲骨折が10倍多いと報告され、2014年に英国や米国をはじめ各国の大腿骨頸部骨折ガイドラインはセメントシステムが推奨されることになった。2021年本邦においても記載され、2022年米国整形外科学会ガイドラインでは、セメント使用の推奨度は「STRONG」に変更された。つまり、セメントシステムの“ルネサンス”が起こっており、今後日本においても使用が増えることが予想される。当科はセメントTHAを4000例以上施行しており、周術期におけるセメント使用の注意点を中心に概説する。

演者

真 賢一 先生

（関西医科大学 整形外科学教室）



承認番号・販売名
23000BZX00172000 パラコスR ボーンセメント

承認番号・販売名
30100BZX00180000 パラコスR+G ボーンセメント

PALACOS®

共催：日本区域麻酔学会 第11回学術集会 アクアメッドジャパン株式会社